

第1回新県立中央図書館整備の検討に関する有識者会議

1 概要

- (1) 日時 平成30年10月23日（火）午後2時から4時まで
 (2) 出席者

氏名	役職
◎糸賀 雅児	慶應義塾大学名誉教授
市川 智章	静岡市立中央図書館長・静岡県図書館協会副会長
小幡 壯	静岡県立中央図書館協議会委員長・静岡県立大学図書館長
草谷 桂子	トモエ文庫主宰・静岡図書館友の会
林 左和子	静岡文化芸術大学文化政策学部文化政策学科教授

2 主な意見

項目	意見
第2章 サービス	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県域全体のサービスを充実できるよう、<u>HP及びSNSの充実</u>を図る。 ・ <u>県と市のサービスの違いは、スケール・規模・コンテンツ</u>。例えば、外国人サービスは市町単独では困難なので県がやるべき。 ・ <u>課題解決型サービス</u>は県が行うサービスの一つ。積極的に取り組むべき。
第3章 市町立図書館支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>市町支援</u>は県の重要な機能の一つ。重点的に基本計画に入れたほうが良い。 ・ <u>静岡市民ばかりが潤うサービスにならない</u>よう配慮が必要。 ・ 県立と市立のサービスの<u>交通整理</u>ができる<u>司書</u>が県立に必要。
第5章 読書推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 読書推進という切り口では、<u>図書館が中心となっていくことは良いが、学校図書館支援には、読書指導という観点から教育委員会からの支援のほうが良い場合があるので、今後検討が必要。</u>
第6章 文化力の拠点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本体のどっしりした図書館がある中の、<u>「新しい知的空間」のコンセプトは非常に良い</u>と思う。 ・ 「新しい文化」を図書館で育むためには、<u>逆説的に県立図書館らしくない図書館</u>を造る事になるかもしれない。 ・ それぞれの<u>軸足は別々になるが、利用者にとっては一体の施設になる方が良い。</u>（イベントに行ったら図書館にも利用していたなど） ・ <u>「新しい知的空間」は民間から提案</u>してもらうほうが良い。
第7章 施設整備	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>岩手県は指定管理</u>にしたため、東日本大震災の際他県よりも<u>図書館復興が遅れた</u>ようだ。 ・ <u>公開書庫</u>の理念は良いが、利用者がすべての書庫出納を行うのは困難。また、書庫内の配架等整理に係る手間も配慮する必要がある。